

**Q** 消防車はなぜ赤いのですか。外国の消防車も赤いのですか？

**A** 道路運送車両の保安基準第49条第2項に、「緊急自動車の車体の塗色は、消防車にあつては朱色とし、その他の緊急自動車にあつては白色とする。」と定められています。消防車が朱色とされた理由は定かではありませんが、朱色は注意を引く色であること、炎の赤を連想させ、警火心を起こさせるなども一つの理由であると思われます。

しかし、アメリカのダラスやウエストコビナ市消防隊などではライムイエロー（レモン色）としており、また、フォートワース消防隊のよう白色にしているところもあるようです。

**Q** 火災現場についてから、どのくらいの時間で消火活動が始まりますか？

**A** 一番近くの消火栓に消防車を止めてから放水を始めるまでは、1分位です。

**Q** 水ホースの長さは、どの位あるのですか。また、何本位をつなぐのですか？

**A** いろいろなものがありますが、普通使っているものは1本20mのものが主流です。

火事の場所や、燃えているものによって大きく変わりますが、大体10本のホースをつなげば十分消火活動ができます。

**Q** 制限速度はあるのですか？

**A** 緊急時であっても、一般道路では時速80km、高速道路では、時速100kmです。

**Q** 119番は、世界共通ですか？

**A** 世界各国共通ではありません。たとえば、アメリカのニューヨークでは、911番、イギリスのロンドンでは999番、フィリピンのマニラでは0番にな

ります。なお、日本の119番の初めは、大正15年1月20日自動交換機の使用開始に伴い、一刻を争う危急の知らせであるため、なるべくダイヤル時間の短い番号が良いということから「112番」と定められましたが、誤接続が多いことから、昭和2年10月から「119番」と改め、現在に至っています。

**Q** どうして、正確に消火栓の場所に行けるのですか？

**A** 消防職員や消防団員は、自分たちがすぐわかるように、地図に消火栓のある場所を記入するとともに、常に巡回を行い、位置を確認して覚えていますので、火事ときには間違えずに行くことができます。また消火栓の近くに標識を設けたり、道路面にオレンジ色の焼付塗装をするなど、だれでもすぐわかるようにしています。

**Q** 消火栓から水が出なかったり、ホースが足りなくなったりすることはないのですか？

**A** 市町村にあるすべての消火栓は、消防職員や消防団員が定期的に巡回して点検しているので、水が出なかったりしたことはありません。

水道工事などで断水がある場合は、あらかじめ給水車や水槽付き消防ポンプ自動車を配置し、火事の際などに備えます。

また、ホースは消防自動車にたくさん積んでいますので、足りなくなることはありません。ただし、断水で消火栓が使用できない地区があるときは、更に、多くのホースを積んで警戒に当たります。

**Q** 消防自動車や救急車は、いつでも一方通行を反対に走れるのですか。

**A** 消防自動車や救急車は、火事や救急で急いで現場に向かうときで、普通に走るよりも早く現場に着くと考えられるときには、一方通行を反対に走ることもあります。

**Q** 火を消すのは、水だけで消すのですか。それとも、火事になった場所や建物によって、水や薬を使い分けるのですか？

**A** 燃えているものによって使い分けています。例えば、燃えているものが住宅の場合は水で消しますが、たくさんの油が燃えている場合は泡消火剤をかけて消しています。

Q

一般家庭に置かれている消火器は、いざというとき何秒ぐらいつかえるのですか？

A

粉末消火器4型の場合、放射時間は、約10～12秒で、放射距離は、3～6mです。

なお、粉末消火器10型の場合、放射時間は、約19秒で、放射距離は、3～7mです。

提供：財団法人日本消防協会